

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（11月①）

きゅうり：
コナジラミ類
(タバココナジラミ：退緑黄化病)

コナジラミ類成虫*



退緑黄化病被害株※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
- ◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミは、キュウリ退緑黄化病の原因ウイルス※1を媒介する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆ キュウリ退緑黄化病と黄化えそ病は見た目で見分けることは困難である。

※1 ウリ類退緑黄化ウイルス(CCYV)。きゅうり、メロン、すいか等に感染する。

防除のポイント

- ◆ コナジラミの発生を認めたら、ベネビアOD、コルト顆粒水和剤等を散布する。
- ◆ 退緑黄化病は、CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要。
- ◆ 発病株はほ場外に持ち出し処分する。

野菜・花き類：
シロイチモジヨトウ

幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、まめ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、グレーシア乳剤(ねぎ、キャベツなど)、ベネビアOD(ねぎ、キャベツなど)、ロムダンフロアブル(ねぎ、花き類・観葉植物、きく)などを散布する。

「引き続きシロイチモジヨトウに注意を！」(令和5年10月13日)
もご参照ください。[http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R5th/boujyoivouhou/2310_bojo02\(shiroichimoziyotou\)_soshin.pdf](http://www.jpnp.ne.jp/osaka/R5th/boujyoivouhou/2310_bojo02(shiroichimoziyotou)_soshin.pdf)

次回の情報は11月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

R5年10月31日現在、Google Chromeで大阪府病害虫防除グループホームページが開かない障害が発生しています。閲覧の際はMicrosoft Edge、Apple Safari等からご覧ください。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（11月②）

バラ科果樹： クビアカツヤカミキリ



フラス



幼虫



株元に溜まったフラス

特徴

- ◆ 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。4月から10月にかけて中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆ フラスが出ている穴の周辺に幼虫がいる可能性が高い。
- ◆ 若齢幼虫はうどんよりも細い(中華麺状)フラスを出すことがあり、見つけにくいがこの時期の防除が効果的。

防除のポイント

- ◆ フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。



成虫



▲詳しくはこちら

「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策(R5.3改訂版)」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2303.pdf

かんしょ(さつまいも)： 基腐病



被害株の葉の変色

特徴

- ◆ かび(糸状菌)の一種が原因。
- ◆ 葉が黄変・萎凋したり、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する。
- ◆ 進行すると茎葉が枯死したり、いもが腐敗する。

防除のポイント

- ◆ 排水不良により発生しやすいので、ほ場の排水対策を徹底する。
- ◆ ほ場を定期的に見回り、発病株の早期発見に努める。
- ◆ 病原菌は被害残さで越冬するため、残さはほ場外に持ち出し適切に処分する。



▲詳しくはこちら

「新規侵入病害 サツマイモ基腐病について(R4.10.31発行)」についてもご参照ください。
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/motogusare/satsumaimomotogusarebyou_siryou.pdf

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報(11月)

水稲

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲 (収穫後防除)		ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)				

果樹類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹		発生に注意: クビアカツヤカミキリ				
みかん		発生に注意:貯蔵病害				
果樹類全般			果樹カメムシ類			

野菜類

※ねぎは令和5年度より巡回調査を開始したため、平年値がありません。

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり				べと病		
	うどんこ病					
			褐斑病			
			ウリノメイガ			
			アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマは 黄化えそ病の発生に注意)			
					コナジラミ類 (退緑黄化病の発生に注意)	
ねぎ		発生に注意:ネギハモグリバエ、ネギアザミウマ(えそ条斑病)				
かんしょ (さつまいも)		発生に注意: 基腐病				
あぶらな科 野菜				根こぶ病		
				菌核病		
			コナガ			

野菜類・花き類

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・花き 類					シロイチモジヨトウ	
					ハスモンヨトウ	
					オオタバコガ	
				アブラムシ類		
				コナジラミ類		

水稲(収穫後防除)

ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



成貝



卵塊

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。

注)成貝の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう！」はこちら

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

温州みかん

貯蔵病害



緑かび病

特徴

- ◆ 青かび病、緑かび病、軸腐病等がある。
- ◆ 青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 収穫前に**トップジンM水和剤**（青かび病、緑かび病、軸腐病）や**バフラン液剤25**（青かび病、緑かび病等）等を散布する。
- ◆ 収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆ 果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。
- ◆ 貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆ カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら夕方が早朝に薬剤散布すると効果的である。
- ◆ 発生を認めたら、**アディオン乳剤**(かんきつ、かきなど)、**スタークル顆粒水溶剤**・**アルバリン顆粒水溶剤**(かんきつ、かき、なしなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤散布に当たっては、収穫前日数や使用回数に注意する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

きゅうり(施設抑制栽培)

べと病



被害葉

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。
- ◆ 下位葉に葉脈で囲まれた黄色角形の病斑ができ、上位葉へ拡大する。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、過湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤等を散布する。発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



被害葉*

特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。
- ◆ はじめ株の下位葉に小麦粉をかけたような病斑ができる。しだいに上の葉に広がり、葉面全体が白色の粉を振りかけたようになる。

防除のポイント

- ◆ 施設内の換気を良好にする。
- ◆ 被害葉を除去し、通風を良くする。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤やフルピカフロアブル等を散布する。発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

褐斑病



被害葉

特徴

- ◆ 高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のポタ落ちで発病が助長される。
- ◆ はじめ葉に円形・褐色の小型病斑を生じ、やがて灰褐色の5～10mm程度の不規則な病斑になる。多湿条件では病斑上に黒褐色のカビが生える。

防除のポイント

- ◆ ハウス内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、ベルコート水和剤、ダコニール1000等を散布する。発生を認めたら、カンタスドライフロアブル等を散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

きゅうり(施設抑制栽培)

ワタハリクロノメイガ(ウリノメイガ)



幼虫*

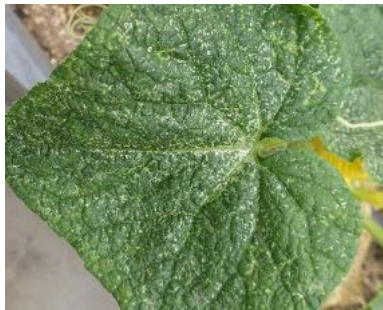
特徴

- ◆ 施設抑制栽培の生育初期に発生が多く認められる。
- ◆ 幼虫は葉をつづり合わせ、その中で葉を食害する。

防除のポイント

- ◆ 生長点を食害するので、幼虫を捕殺する。
- ◆ 施設の開口部を寒冷紗(2mm目合)等で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ 発生初期にベネビアOD、プレバソフフロアブル5、デルフィン顆粒水和剤等を散布する。

ミナミキイロアザミウマ(黄化えそ病)



ミナミキイロアザミウマ被害葉※



黄化えそ病被害葉※

特徴

- ◆ アザミウマの発生初期は、葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ キュウリ黄化えそ病※1等の原因ウイルスを媒介する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化等の症状を示す。

※1:メロン黄化えそウイルス(MYSV)によるウイルス病。きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等に感染する。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ミナミキイロアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフアーム乳剤、バストガード水溶剤等を散布する。
- ◆ 黄化えそ病の発病株はほ場外に持ち出し処分する。

ねぎ

ネギハモグリバエ



葉の食害痕

特徴

- ◆ 葉の内部を幼虫が食い進み、その痕が細長く白い筋になる。
- ◆ 新系統が発見されており、従来に比べて一葉あたりの幼虫数が多く、集中的に葉肉を食害するため、葉が白化したようになる。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、系統に関わらず、「ハモグリバエ類」、「ネギハモグリバエ」に適用のあるグレーシア乳剤、アフーム乳剤などにより、発生初期の防除を徹底する。



▲新系統について詳しくはこちら

ネギアザミウマ(えそ条斑病)



えそ条斑病の葉の病斑

特徴

- ◆ ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- ◆ えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ◆ えそ条斑病に対する有効な薬剤はないので、媒介昆虫であるネギアザミウマの防除を徹底するとともに、感染株を見つけたらほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ◆ えそ条斑病の病原ウイルス(IYSV)は一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ◆ ネギアザミウマの発生を認めたら、グレーシア乳剤、プレオフロアブル、スミチオン乳剤等を散布する。なお、薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



ネギアザミウマ

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆ 土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。
- ◆ 土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいため、石灰質資材等を施用し、pH7程度に調整する。
- ◆ 発病株は早めに根ごと除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワー等では定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶ等では種前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。

菌核病



キャベツでの発生

特徴

- ◆ 暖冬時に発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ なばなやレタス等、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
- ◆ キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期からロブラール水和剤、ベンレート水和剤等を予防的に散布する。

コナガ



幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆ 発生を認めたら、アクセルフロアブル（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類）、ディアナSC（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類）、ベネビアOD（キャベツ）等を散布する。



成虫 ※

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜類・花き類

※作物毎に登録内容が異なるので、散布前に必ずラベル等で確認する！

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ キャベツ、なす科野菜、さといもなど多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、ディアナSC(なす、トマト、ミニトマト、キャベツなど)、コテツフロアブル(なす、キャベツ、花き類・観葉植物など)、プレバゾンフロアブル5(なす、キャベツなど)、プレオフロアブル(なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、花き類・観葉植物など)等を散布する。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。
<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto.l.pdf>



オオタバコガ



幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆ 発生を認めたら、プレバゾンフロアブル5(なす、トマト、ミニトマト、キャベツなど)、スピノエース顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、きくなど)、プレオフロアブル(なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、花き類・観葉植物など)等を散布する。



卵

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤(なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、しゅんぎくなど)、アドマイヤー顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、キャベツなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、花き類・観葉植物など)、ウララDF(なす、トマト、ミニトマト、キャベツなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

- 病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。(http://www.jppn.ne.jp/osaka/)
- 農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

コナジラミ類



トマト黄化葉巻病発症株と
タバココナジラミ成虫※

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、トマトではタバココナジラミは吸汁による果実の着色不良、TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)の伝搬等、様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病などのウイルス病は、感染すると株ごと除去する以外に対策がないため、媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- ◆ ベネビアOD(トマト、ミニトマト、きゅうりなど)、コルト顆粒水和剤(なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど)等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。